

K O B E
O J I Z O O

はばたき

神戸の動植物園グラフ

MARCH 2000 No.46
神戸市立王子動物園 第46号



ジャイアント
パンダは
6月頃公開予定

目次 CONTENTS

表紙

ジャイアントパンダ 写真家 / 井川宏之

P1~2

巻頭言 神戸市長 / 笹山幸俊
ジャイアントパンダ 写真: 谷岡正之

P3~4

テーマⅠ パンダが神戸にやってくる!
文と写真: 園長 / 大久保建雄

P5

テーマⅡ 円形猛獣舎の紹介 文: 安田伸二
写真: 清見雅史

P6

テーマⅢ 密輸オランウータン、故郷へ帰るまで
文: 奥乃弘一郎
写真: 清見雅史

P7~8

飼育レポート 意外に知られていないコアラの生活
文と写真: 中筋功二

P9~10

オランウータンの子どもたち
写真: 読売新聞大阪本社 記者 /
Nancy Toshiko Enslin (ナンシー トシコ エンスリン)

P11~12

第11回アマチュア動物写真コンクール 特別賞
第32回たつ年、賀状版画コンクール 特別賞

P13~14

動物の話題
ベビー誕生、ニューフェイス 飼育担当職員
ZOOっとタイムズ No.12 マンガ: かわかみひろし

P15~P16

神戸の公園情報
須磨離宮公園・森林植物園・
花と緑のまち推進センター・布引ハーブ園

P17~P18

トピックス・イベント・動物園ニュースから
動物科学資料館情報 特別展と催し

裏表紙

ジャイアントパンダの糞 写真: 村田浩一
平成12年度王子動物園行事予定
編集後記 副園長 / 森元賢典

表紙動物の説明

ジャイアントパンダ

● 食肉目 クマ科 パンダ亜科 ●

Giant panda

Ailuropoda melanoleuca

分 布 中国の四川省などの限られた地域に分布し、野生での生息数が約1,000頭といわれる希少動物です。

特 徴 耳、目の回り、鼻面、前足、後足そして肩が黒色、その他は白色というユニークな模様を持ち、クマに似た体つきをしています。普通、単独で生活し、竹の葉や茎などを好みますが昆虫や小動物も食べます。



はじめに

“ジャイアントパンダの日中共同飼育繁殖研究” によせて

神戸市長 笹山 幸俊

早いもので、大震災から5年が経過しましたが、この間、神戸市では復旧・復興に全力を注いでまいりました。そして、市民のみなさんの懸命なご努力と全国からの温かい励ましとご支援により、お陰を持ちまして、復興も着実に進んできております。

この時期に、大勢の人々に愛されるジャイアントパンダ（雌雄2頭）を、日中共同飼育繁殖研究のために、王子動物園で飼育することになり、まことに喜ばしいかぎりです。来年3月で開園50周年を迎える王子動物園にとっても、ジャイアントパンダの来園は新たな夢と希望になることでしょう。

もちろんその背景には、神戸市と天津市の27年間にも及ぶ友好関係と、キンシコウの日中共同繁殖研究において、王子動物園で生まれたキンシコウを世界で初めて中国に里帰りさせた実績があること等、神戸市と中国との信頼関係が築かれていたためと思っております。

私も一昨年と昨年の訪中において、ジャイアントパンダの来園について協議し、日中共同飼育繁殖研究の意向書を締結してまいりましたが、その間、李瑞環政治協商会議主席を始めとする中国首脳の方々のご厚意と友情をひしひしと感じました。

また、中国側のご好意により、ジャイアントパンダの愛称を神戸で募集できるようになりました。募集要領が決まりましたら新聞等でお知らせいたしますので、みなさんにかわいがってもらえる愛称をご応募ください。

ジャイアントパンダは、早ければ4月下旬に来園し、1ヵ月位の訓練を経て6月頃一般公開の予定ですが、少しでも早い時期に二世が誕生し、みなさんとともに喜べる日を楽しみにしております。



パンダの子どもを抱く笹山市長



ジャイアントパンダ保護研究センター内パンダ飼育舎風景



ジャイアントパンダ保護研究センター入口



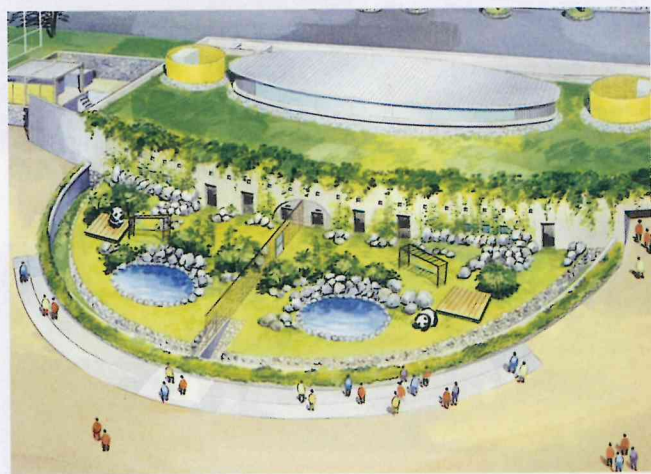
写真の説明

上 平成11年2月、笹山市長が中国四川省臥龍自然保護区内のジャイアントパンダ研究センターを訪問しました。

下 ポートピア'81で大勢の人たちを喜ばせ博覧会成功の一端を担ってくれた「サイサイ」(オス)と「ロンロン」(メス)

テーマⅠ パンダが神戸にやってくる！

神戸市立王子動物園では、中国国家林業局・中国野生動物保護協会と協議し、平成12年度から10年間の予定で「ジャイアントパンダ日中共同飼育繁殖研究」を実施することになりましたので紹介します。



ジャイアントパンダ舎完成予想図

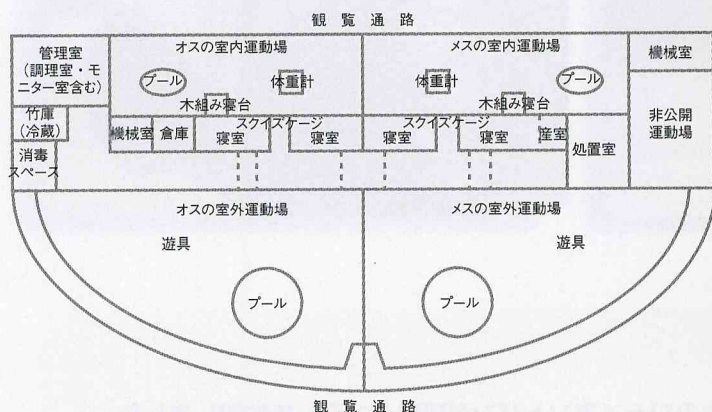
《何時、どこから来るの？》

今年の4月下旬に中国四川省にある「中国ジャイアントパンダ保護研究センター」から2頭（オス・メス）のジャイアントパンダが神戸にやって来ます。その目的は中国と共同で世界の希少動物であるジャイアントパンダの「国際繁殖研究」を行うことにあります。今、王子動物園ではその受け入れ準備を進めています。順調に行けば6月頃に皆様にも見ていただける予定です。

《ジャイアントパンダ舎の概要》

昨年10月頃からジャイアントパンダ舎の工事を進めており、獣舎はジャイアントパンダにとって暮らしやすいように配慮した構造にしています。（下図参照）

ジャイアントパンダ舎概略図



位置 王子動物園入り口ゲート正面奥

規模 敷地面積 1,253 m²
鉄筋コンクリート1階建
構造 屋外運動場・屋内運動場・寝室・産室・研究治療室・管理室・調理室・倉庫等

《日中共同飼育繁殖研究》

王子動物園と中国との共同による繁殖研究は、平成4年からキンシコウ（金絲猴）を対象に実施しています。この共同研究は大変順調に進み、これまで3頭の子どもの繁殖に成功しています。中国以外でキンシコウの出産は初めての事でした。第1子は平成5年に生まれましたが、残念ながらあの大震災の後死亡しました。その後平成7年、8年と続けて誕生しそれぞれ「勇勇」（オス）「鈴鈴」（メス）と名付けられ元気に育ちました。そしてこの可愛い子どもたちを世界で初めて故郷の中国へ里帰りさせました。このキンシコウの繁殖研究の実績を踏まえ、これに続く共同研究としてジャイアントパンダの飼育繁殖研究を今後10年間行います。

《野生のジャイアントパンダは？》

今、野生のジャイアントパンダは中国の西部の三省（地域）に約1,000頭程度しかいないと言われています。昔はこの三省以外にも多くの地域に生息していた他、隣のベトナムやミャンマーにも広く分布していたことが化石等の資料から解っています。

そのジャイアントパンダがなぜこんなに少なくなったのでしょうか？きれいで可愛いので捕獲されたため、



臥龍ジャイアントパンダ保護研究センターにて
中国野生生物保護協会「王 福興」秘書長（中央）

他の動物に比べ発情の時期が短く繁殖率が低いため、竹を主食にする独特の進化をしたが竹は数十年に一度一斉に枯れるので、餌がなくなり多くが餓死した等いろいろな原因があると思われます。もう一つ、人間による自然環境の破壊が竹林等ジャイアントパンダの生息地を少なくした事も重大な原因ではないでしょうか？

《ジャイアントパンダの保護のため》

世界の希少動物のシンボルにもなっているこのジャ



臥龍ジャイアントパンダ保護研究センター内の山林で
(飼育中の♂10才、メス♀9才)

イアントパンダを保護するため、中国政府は生息地内に特別保護区を設置し生息環境の保全に努めています。また、ジャイアントパンダの繁殖等について研究施設を設け「種の保全」にも大きく力を注いでいます。ジャイアントパンダの保護、特に繁殖については飼育管理下で科学技術を駆使した様々な試みを実施し、その成果を生息地に反映させることができればより一層ジャイアントパンダの保護に役立つと思われます。この日中共通の認識からこの度共同繁殖研究を行うことになりました。可愛い子どもが生まれ、中国の生息地へ里帰りできるよう全職員で頑張ります。また繁殖のための技術研究のみならず、中国政府が実施する野生のジャイアントパンダ保護事業にも積極的に支援し寄与して行きたいと思

っています。

《多くの方にパンダを見ていただきたい》

研究のために飼育するジャイアントパンダを通して希少動物の現状・種の保全・自然環境保全の意義等に



ジャイアントパンダの赤ちゃんを抱く大久保園長

ついて、見学される皆様が学習を深められ、また、そのいとぐちになるような情報を提供して行きます。「神戸パンダ」が健やかに育ち研究目的が達成できるよう、そして市民の皆様に親しまれ子どもたちに愛され人気者になり、更に市外・県外から多数の方々に神戸に来ていただき、街に活気が満ちあふれるようになることを願っております。



臥龍ジャイアントパンダ保護研究センター（飼育中の♀4才）

テーマⅡ 円形猛獣舎の紹介

平成 12 年 3 月 24 日にオープンする新しい猛獣舎を紹介します。



《施設の特徴》

円形猛獣舎は、①円形（ドーナツ型）のガラス張り施設、②生態展示を取り入れている、この2点が以前の猛獣舎と大きく違うところです。円形（ドーナツ型）でガラス張り施設とすることにより、見て楽しく変化のある展示と動物との距離感をより短縮できるようになります。また、外側と内側から動物を見られるようになり、動物たちの様子を色々な角度から観察できるようになりました。



円形猛獣舎完成予想図

《動物たちへの配慮》

「いろんなところから動物が観察できるのはいいが、動物にストレスがかかるのでは？」と疑問がわくと思います。そこで、“生態展示”を行ってできるだけ動物たちにとっても快適な空間を作り出す必要があります。“生態展示”とは、本来その動物が生息する環境を展示施設の中に取り入れ、動物と環境を一体化することにより、野生動物へのより深い理解を得る展示方法を



外側の大きなガラスや内側の小さなガラス越しに観察できる

言います。当然、運動場には、自然木、岩石などが配置され動物が運動、休息がとれる空間が作り出されています。

《ネコ科の大型猛獣が入居》

円形猛獣舎には、アムールトラ、ライオン、ジャガー、アムールヒョウ、ユキヒョウの大型ネコ科5種の動物がその中で生活します。その生息地もアジア大陸北部のタイガ地帯、アフリカの草原、中南米のジャングル、ヒマラヤなどの高山地帯と多岐に渡っておりその動物の生息地の特徴を出すのに苦勞をしました。

《最善の生活を工夫》

生息地環境を作り出すために、自然木や自然石だけではどうしても限界があります。そこで擬木、擬岩などの人工の造形が必要になります。今回の動物たちの運動場にも、これらの人工の造形物が使われていますので“自然のもの”“人工のもの”をご自分の目で確かめてください。



自然木や岩石等を配置し隠れる場所も確保

テーマⅢ 密輸オランウータン、故郷へ帰るまで

オランウータンは、ワシントン条約により国際間の取引が厳しく規制されています。大切に保護すべき希少動物であるにもかかわらず、大阪のペットショップによる密輸事件が起きました。大阪府警は、王子動物園に緊急避難的に保護預かりを依頼してきました。保護収容から返還までの経過を紹介します。

《平成11年6月2日 4頭来園》

4頭とも下痢をして、毛づやは悪く栄養不良の状態でした。特に、メスのDは脚の弱さが目立ちました。早速、健康チェックを開始しました。



6月2日、大阪府警から到着

《7月1日 はれて屋外へ》

約1か月の検疫期間も終わり、便は正常、元気も良好。日中、体格がほぼ同じオスのAとメスのB・Dは大きな部屋に一緒に入れ、オスのCはケージごと、屋外へ出しました。日光浴は皮膚炎にも効果がありました。



検疫を終え、いい湯でご機嫌

《7月21日 保管期限の延長》

6月20日まで、7月20日まで、と再度の保管期限を延ばす依頼がありました。小学生対象のサマースクールでは、オランウータンを例にして、希少動物を守る大切さを説明しました。



サマースクールで希少動物の生きた教材に

《7月30日 大阪府警との合同計測》

大阪府警と合同で計測を行ったところ、Aは9.0 kg、Bは8.5 kg、Cは13.0 kg、Dは7.5 kgでした。暴れん坊のCもおとなしくなり、ケージから出して屋外の部屋へ移動できるようになりました。

《9月12日 亜種鑑定》

オランウータンは2つの地域亜種に分かれます。4頭から採血し、環境庁を通じて北海道大学で染色体を調べた結果、すべてボルネオ亜種と判明しました。

《12月 冬の到来とアカギレ》

冬の到来とともに外へ出せなくなり、空気の乾燥から肌あれができ、Aの踵にはアカギレまで生じました。少しでも外へ出せるよう屋外施設に暖房用のエアコンや風よけシートをつけ、肌あれはスキンケアや加湿により良くなりました。



大変な仕事でしたが分かれるとなると寂しく感じる

《平成12年2月2日 故郷へ旅立ち》

警察から検察庁、通産省、インドネシア政府へと管理者が移って輸出手続きも完了し、やっと故郷へ帰る日を迎えました。カリマンタン島サンボジャにあるワナリセットでのリハビリが成功して、野生に戻ることを祈っています。



箱に書いた気持ちとともに王子動物園を離れる時がきた

皆さんは、私を「マディー」と呼びます



ユーカリの新芽の美味しい所だけ食べる

知られていない二つの系統

私たちコアラは北方系コアラと南方系コアラという二つの亜種があります。オーストラリアは北は暑く、南は寒いのです。だから北方系コアラは温暖な地域に住んでるせいもあり、南方系コアラと比べて毛は短く薄い灰色で、身体も小ぶりなのです。それに対して南方系コアラは寒い地域に住んでいるため、毛も長く黒っぽい灰色をしていて、北方系コアラと比べて大ぶりなのです。私たちは、北方系のコアラなのです。

ブリスベンから神戸へ

私たちが、神戸にやって来たのは1991年9月12日で、主人の「M・G・ジュニア」と幼なじみの「ジェンマ」

1989年11月15日にオーストラリアのブリスベン市（神戸の姉妹都市）にあるカランビン・バードサンクチュアリー（保護区）で生まれたメスのコアラです。学名は「ファスコラルクトス シネレウス」と言い、「袋のある熊」という意味なのです。でもクマの仲間ではなく、有袋目と言ってメスには、育児のうという袋があるカンガルーの仲間なのです。

ユーカリだけを食べる

私たちコアラは、オーストラリア大陸東部に住んでいる動物で、森林の90%以上を占めるユーカリの木の上で生活しているのです。ご存じのようにユーカリの葉しかたべません。ユーカリといっても約600種類ぐらいあって、その中でも私たちが好んで食べるのは、ほんの数種類だけなのです。

と共に王子動物園に贈られてきたのです。私は、5頭もの子どもたちを次々と産み、皆元気ですくすくと育ちました。今でも王子動物園に残っているのは、息子の「マイケル」、娘の「メアリー」と「マリア」たちです。



末っ子「マリア」。早く弟や妹が欲しいな、と思っているかどうか？



お腹の袋で育てます

妊娠期間は34日間で、超未熟児で生まれ、一円玉ぐらいの大きさ、重さも0.5gぐらいで、毛もはえていません。必死になってお母さんのお腹をよじ登り、袋の中に入ります。二つある乳房の片方をくわえ、約半年間お母さんの袋のなかで生活します。半年を過ぎるころになると、袋から顔をのぞかすようになり、徐々に全身を出すようになります。そのころから離乳食として「パップ」と呼ばれるお母さんの盲腸糞（ウンチ）を食べようになり、お母さんから生きるために必要な細菌やいろんな免疫をもらい、ユーカリの味もおぼえるのです。そのころの大きさは約15センチぐらいで、重さは250g。そして、7ヵ月ぐらいになると完全に全身を袋から出し、お母さんの背中などにしがみ付き、1年ぐらいで独り立ちしていきます。

人気の秘密

私たちコアラが人間から可愛いらしいと思われるのは、どうやら容姿としぐさにあるようです。例えば、私が子どもを背中にのせている姿を見せるとすぐ絵になるみたい。ボールのように真ん丸になって寝ている姿や、身体をあまり動かさないようにボーとしていることが多いのです。そんなしぐさが人間たちに受けているみたいですね。食事をするとき、まず臭いをかぐしぐさをして、ひと口・ふた口と食べる癖も可愛らしく思え、生きているぬいぐるみと呼ばれるゆえんでしょうか。

栄養の少ないユーカリに適応

ユーカリという限られた栄養分の食事しか取らないため、できるだけエネルギーを消費しないようにしなければなりません。だから良く眠るのです。でも、止まり木から隣の止まり木ぐらい軽くジャンプする力があります。また、ちょっと下品ですが、一日に十数回ゲップをします。それはかみくだかれたユーカリが胃の中で、細菌の働きによって消化するときに発生するガスなのです。

鳴き声を聞いてね

私たちが声をだして鳴くことは、あまり知られていませんが、「グオーオ、グオーオ」と牛の雄叫びのように鳴くのです。オスたちはテリトリーを守るために、メスたちは恋の季節によく鳴いています。チャンスがあったら聞いてみてください。

快適な生活をありがとう

私たちコアラは大変デリケートな動物であるため、色々と細かく管理されています。たとえばカメラのフラッシュをたかれたり、展示室のガラスをドンドンとたたかれること、ただそれだけでストレスを感じ体重が減ってしまうのです。ですから毎週日曜日に健康管理のため、体重測定をしてもらっています。また毎日私たちの食事の量と便の数を記録してもらい、健康管理に気をつけてもらっているため、快適な生活を送っています。



毎週日曜日の体重測定は健康管理に欠かせない

マディーからのお願い

そんな私たちも19世紀から20世紀初めにかけて、絶滅の危機にひんしたことがあるのです。それは私たちの毛皮を取るため、多いときには年間数百万頭のコアラが乱獲されていました。でもその後はオーストラリア政府や州政府の手厚い保護がなされ、今ではかなりの数まで増えているようです。しかし山火事や交通事故、環境破壊などによりまだまだ心配の種は減りません。どうか人間も自然の尊さをもっと知り、おろかな過ちを繰り返さないようお願いします。



大人のための動物園講座やサマースクールでは人気の的になる



オランウータン

●霊長目 ショウジョウ科●
Orang-utan
Pongo pygmaeus

オランウータンの子どもたち

カリマンタン島とスマトラ島の熱帯雨林に住む。上のオランウータンは、密輸者たち。この3頭の他にもう1頭いた。

親と引き離された彼らにとって、飼育職員はかけがえのない母親代わりでした。



で保護預かりしたボルネオ亜種の子ども

撮影者 読売新聞大阪本社 記者
Nancy Toshiko Enslin
(ナンシー トシコ エンスリン)

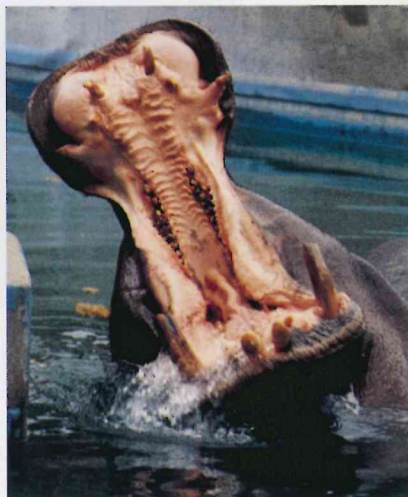
第11回アマチュア動物写真コンクール

応募点数 695点 審査 動物写真家 田中 光常先生

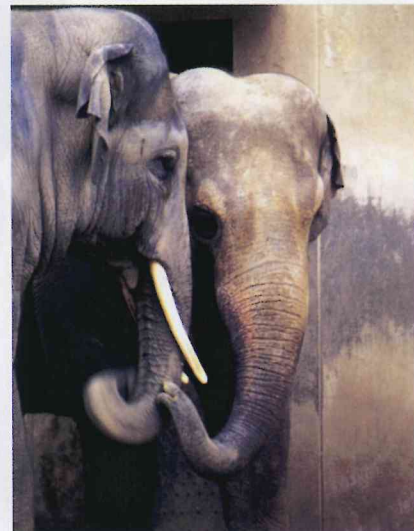
特別賞作品 (敬称略)



神戸市長賞
「砂浴び」竹安 義雄 (兵庫県伊丹市)



サンテレビジョン賞
「あくび」角田 進 (兵庫県明石市)



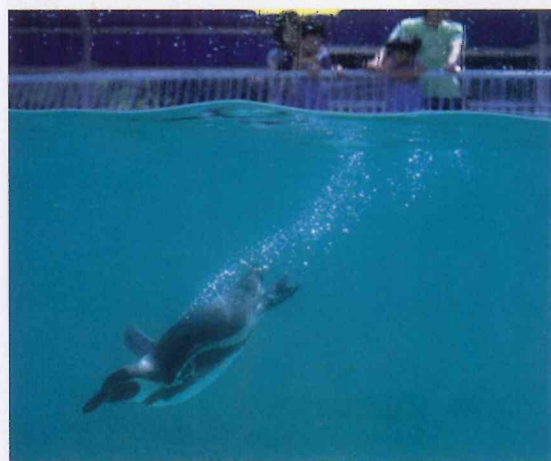
神戸市公園緑化協会賞
「LOVE」塔筋 幸造 (神戸市兵庫区)



王子動物園長賞
「ガバッ」柿谷 方美 (神戸市東灘区)



神戸新聞社賞
「ファミリー」中村 守敏 (兵庫県明石市)



フジフィルム賞
「急降下」炭田 郁子 (大阪府堺市)



神戸市動物愛護協会長賞
「今日は赤ちゃん」吉田 和夫 (神戸市中央区)

第32回たつ年賀状版画コンクール

応募点数 1,256点 審査 版画家 川西 祐三郎先生

特別賞作品 (敬称略)



神戸市長賞
亀井 麻美 (神戸市北区)



神戸新聞社賞
山田 直人 (姫路市立水上小学校 5年)



王子動物園長賞
藤原 道雄 (兵庫県大河内町立上小田小学校 3年)



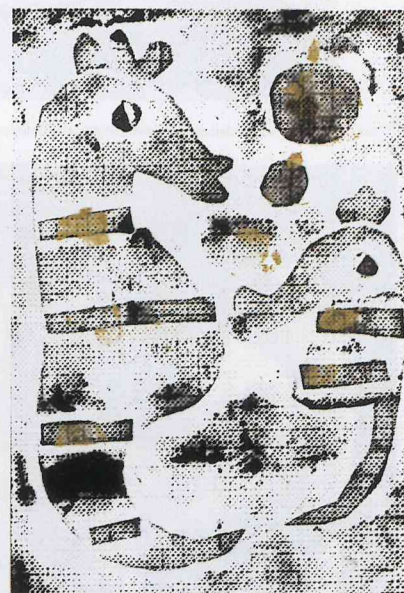
神戸市教育委員会賞
嶋崎 将恭 (神戸市・泉台幼稚園 5才)



サンテレビジョン賞
巖 友美 (龍野市立龍野東中学校 14才)



神戸市動物愛護協会賞
岩井 優美 (神戸市立玉津第一小学校 2年)



神戸市公園緑化協会賞
田井 彩也香 (明石市立松が丘幼稚園)

動物の話題

●ベビー誕生●

ラマ

(平成11年11月13日生まれ)

くりくりとした大きな目玉がとってもかわいい。
北園ラマ舎でご覧になれます。



カピバラ

(平成11年11月17日生まれ)

親をそのまま小さくしたぬいぐるみのようです。
ネズミの仲間とは思えない大きさにびっくり！メス親からお乳をもらっている様子がみられるかもしれない。放養式動物舎東側の『カピバラ舎』で
ご覧になれます。



ワオキツネザル

(平成11年12月26日生まれ)

「小猿舎」でご覧になれます。母親の背中やお腹にしがみつき、暖かい日には両親とひなたぼっこをしています。



ヨザル

(平成12年1月16日)

「太陽の動物舎」で夜間の生活がご覧になれます。母親の背中やお腹にしがみつき、大きな目は夜にも良く見えます。



ニューフェイス

キンシコウの新しい仲間 「ケンケン」

(平成11年12月30日来園)

「ケンケン」(オス5歳)は大変人なつこく、王子動物園の生活にもすぐに慣れ、新たなキンシコウファミリーの誕生となりました。近い将来に繁殖が期待されます。

右端が「ケンケン」

動物たちとあそぼ！



長寿祝いの「寄せ書き」

動物たちの 体重・体長をはかる集い

(平成11年8月22日開催)

チンパンジーの『育ちゃん』やエゾヒグマの『良ちゃん』など5頭の体重・体長を計りました。



インドゾウの 『ズゼ』をはかる会

(平成11年11月3日開催)

昨年より244 kg増えて3,119 kgの体重でした。



オウサマペンギンたち 屋外プールへ引っ越し

(平成11年10月24日開催)

オウサマペンギンは暑さに弱く、外気温が20度未満となった『二十四節季の霜降』の日、約20 mの観覧通路を歩いて屋外プールへ移りました。



ZOO

つとタイムズ

まんが：かわかみひろし

No.12

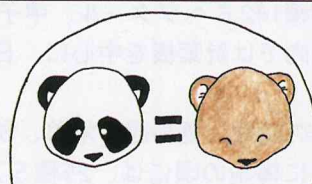
神戸にパンダ来たる

パンダの予備知識を勉強中



パンダ担当のK光氏

1



パンダはクマの仲間なのか？



えんちゅー!!

2



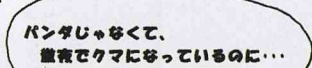
オオ!!

さすがパンダ担当だけに
パンダになりにきっているや!!



ふくえんちゅー!!

3



パンダじゃなくて、
熊でクマになっているのに...



パンダ担当のK光氏
昔、0.1と男と呼ばれていた

4

神戸市立 須磨離宮公園

須磨離宮公園に行ってみよう！

須磨離宮公園は、大正時代の初めに建設された皇室の別荘（武庫離宮）のあと地につくられ、現在の天皇后両陛下のご結婚を記念して30年余りに完成した伝統のある公園です。そして我が国では本格的な西洋式庭園を備えた初めての公園として、市内はもとより全国的にもその名が知られています。晴れた日に、この広大な庭園からゆったりとした瀬戸内海をながめっていると気持ちが晴ればれとしてきます。それに、新緑の季節にはツツジの花がいっせいに咲き乱れ、バラや色とりどりの草花がやさしく語りかけてくれます。

また、観賞温室はまるで別世界！「これもそうなの？」と思ってしまうほど、はなやかでふしぎな姿をしたランの花であふれます。他に、温室の隣にある「花の庭園」では春から夏にかけて青や白の草花でいっぱい。時間がたつのを忘れてしまいそうです。そして、勉強で疲れた時や運動不足の時には「子どもの国」のフィールドアスレチックで思い切り汗をかきましょう。

さあ、さっそく、おべんとうを持って出かけませんか！

☆休園日 毎週「木曜日」（ただし祝祭日の場合はその翌日）

お問い合わせ：〒654-0018

神戸市須磨区東須磨1-1

☎078-732-6688

FAX 078-734-6022



神戸市立 森林植物園

春の森で自然と友だちになろう

面積142.6ヘクタール、甲子園球場の約35倍ある広大な植物園です。

園内では針葉樹を中心に、日本の代表的な樹木や世界各地の樹木、1,200種20万本を育てています。

春の新緑、夏の緑の木陰、秋のもみじ、冬の雪景色など、一年を通じて美しい自然をたのしめます。

特に梅雨の頃には、25種5万株のアジサイが咲き乱れ、「森の中に咲くアジサイ」として全国的に知られています。また、350品種のアジサイを育てる世界一の規模を誇る「あじさい保存園」も公開しますので、ご見学にどうぞおこしください。



☆休園日 毎週「水曜日」

（但し、祝祭日はその翌日）

☆神戸電鉄北鈴蘭台駅前から定時送迎バスを
通年運行しています。

お問い合わせ：〒651-1102

神戸市北区山田町

上谷上字長尾1-2

☎078-591-0253

FAX 078-594-2324



神戸市立

花と緑のまち推進センター

暮らしに花と緑を
広がる花と緑のネットワーク。
各種活動を通じてみなさまのお役に立ちます。

●市民花壇コンクールの開催や園芸相談、園芸教室、生垣化・ベランダ緑化など緑化助成事業、各種花と緑の催しの開催など様々な活動を行っています。

「第2回神戸まちなみ緑花コンクール」

花や緑ある景観を写真で募集し、一次選考後、現地調査を実施し、四季を通じて緑花に努力している個人、団体を表彰します。

1. 応募期間 5月1日～31日
2. 応募部門 ○住宅緑花部門（個人）
○まちなみ緑花部門（団体・グループ）
3. 応募方法 申込み用紙に部門・必要事項を記入し、写真3枚を添付し応募

「花のフェスタこうべ2000」

花があふれ緑豊かな街づくりを進める「花のまち神戸」運動のメイン行事として開催します。

1. 会場 神戸総合運動公園
2. 会期 平成12年4月29日（土・祝）、30日（日）
- 入場料 無料 〔予想入場者 8万人〕



花と緑のまち推進センターは、神戸市の目指す花と緑に囲まれたまちづくりを推進するため、様々な啓発緑化事業に取り組んでいます。

多くの市民の皆様のご利用をお待ちしています。

お問い合わせ：〒650-0006

神戸市中央区諏訪山町2-8

☎078-351-6756 FAX 078-341-8710

Eメール webmasuter@kobe-park.or.jp

ホームページアドレス <http://www.kobe-park.or.jp>

神戸市立 布引ハーブ園



春のときめきをハーブとともに…



こころよい春風が、やさしいハーブの香りを運ぶ季節になります。足元に咲く、可憐なスイートバイオレット、カモミール、ポリジ、タイムなどハーブの香りがさわやかな気分にさせてくれます。

コンサートや展示、気軽に参加できるクラフト作りなど、楽しいイベントが目白押しです。

春のハーブ・花まつり

4月1日（土）～5月31日（水）

ハーブ展 ～ハーブティーを楽しもう～

3月4日（土）～4月11日（火）

ハーブ＆スパイスのタペストリー展

4月18日（火）～5月28日（日）

出展協力：領家咏子氏



新神戸ロープウエー「夢風船」で約10分の空中散歩、神戸市街地や大阪湾のパノラマが楽しめます。

☆休園日 第2、第4月曜日 ただし祝祭日の場合はその翌日

お問い合わせ：〒651-0058

神戸市中央区葺合町字山郡 ☎078-271-1131 FAX 078-271-1133

●第24回動物愛護の標語 (平成11年8月31日)

王子動物園で応募のありました87点の作品の内優秀作品として次の5点を日本動物園水族館協会の中央審査応募作品として提出しました。

- 1『動物は みんなの愛で 守るもの』
牧尾 亜紀子 (専門学校 19才)
- 2『大きい子 小さい子 かわいいどうぶつ
みんなそろってあそんでる』
玉村 匡嗣 (神戸市立五位の池小学校2年生)
- 3『暮らしたい どうぶつたちと えいえんに』
上月 美奈 (私立松陰高校3年生)
- 4『育もう 地球に在るべき 小さな命』
大河内 健太郎 (フリーター)
- 5『しゃべりたいな 人間のことば
ききたいな 動物のことば』
伊原 みずほ (神戸大学附属住吉小学校3年生)

●長寿動物表彰 (平成11年9月23日受賞)

25歳のカカバ、「シャンシャン」(メス)は、神戸市動物愛護協会から長寿動物表彰を受賞しました。

●動物音楽会 (平成11年10月17日開催)

童謡や良く知られている動物にまつわる音楽を中心に、子どもたちから高齢者の方まで楽しめる音楽会で、客席は満員になりました。



●第7回夜間探検隊 (平成11年11月13日、14日開催)

日頃見ることのできない真っ暗な動物園で、ヘッドライトの明かりを頼りに、動物たちの夜の行動や寝ている姿など、新たな発見に子供たちは、感動しました。



●第9回「干支の引継式」 (平成11年12月19日開催)

ウサギからタツに干支を引き継ぎました。アトラクションとして神戸市立兵庫商業高校の龍獅団による『龍舞』を上演しました。



●第3回「動物園クリスマス会」

(平成11年12月23日開催)

サンタクロースやジャイアントパンダ、ペンギンの着ぐるみと600人の子どもたちが楽しい1日を過ごしました。





オランウータンとチンパンジーの「育ちゃん」

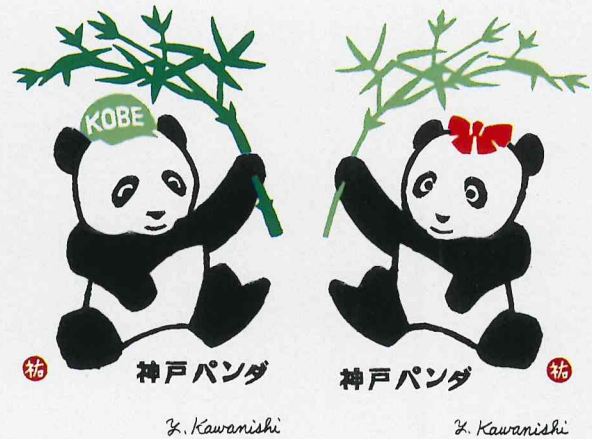
●大人のための動物園講座 (平成 12 年 2 月 27 日開催)

82 人の方が参加されました。チンパンジーにスポットを当て、当園での飼育状況、生物学的特徴などの講義と園内獣舎のバックヤード、調理場、動物病院などの見学を行いました。



●神戸パンダ

ジャイアントパンダが市民の皆さんに愛されるよう、イメージキャラクターを決めました。イメージキャラクターは、版画家の川西祐三郎先生に制作していただきました。今後、イメージキャラクターは「神戸パンダ」として、皆さんに親しんでいただければ、と思います。



動物科学資料館情報

特別展「龍と空想動物」

平成 11 年 12 月 18 日から平成 12 年 2 月 29 日まで

平成 12 年の干支は辰です。十二支の中では唯一空想動物です。これにちなみ、龍をはじめとする空想動物の言い伝えや、実存する動物との関係などについて紹介しました。

導入展示は、龍の起源や龍とドラゴンの違い、格言やことわざに登場する龍を解説しました。

続く空想動物園では、天狗や人魚といったおなじみのものから、未来に現れるかも知れない空想動物までを集めました。また、暮らしのなかの龍、龍にまつわる動植物のコーナーでは、民芸品や絵馬、国旗、鉢植えなど貴重な資料を展示し、多くの方に見ていただくことができました。

その他、会場の天井から長さ 25 メートルの龍をつり下げ、天駆ける龍を再現しました。この中国上海製の龍は、神戸市立兵庫商業高校からお借りしたもので、展示の雰囲気作りに大変役立ってくれました。



◆子どもなんでも動物相談のご案内

日時：日曜、祝日の午前 10:00 から 11:30
午後 1:30 から 3:00

場所：動物科学資料館 休憩ホール

内容：動物相談 紙芝居など

◆動物相談箱 動物科学資料館 休憩ホール
動物に関する質問を備え付け用紙に記入し箱へ入れてください。後日、回答いたします。

◆動物鳴き声テレホンサービス

TEL 078-881-8102 に電話ください。



ジャイアントパンダの糞

(縮尺2/3)

編集後記

王子動物園では、中国側と①ジャイアントパンダ日中共同飼育繁殖研究実施のための協議、②獣舎建設についての具体的なアドバイス、③神戸にやってくる候補個体の決定、④愛称募集と、ジャイアントパンダが皆さんに親しんでいただけるよう、受入準備を整えてきました。

ジャイアントパンダの日中共同飼育繁殖研究が中国側技術団と共に、まもなく始まることになります。

「はばたき」第46号をお届けするころには、円形猛獣舎は完成し、ジャイアントパンダ舎も急ピッチに工事が進められ、完成間近になっていることと思いますので楽しみにしてください。

また今号は、①「神戸にパンダがやってくる!」と題して、大久保王子動物園長が臥龍ジャイアントパンダ繁殖センターでの視察状況の報告と②昨年6月に保護されたオランウータン4頭の飼育レポートと③コアラ導入から10年が経過し、コアラの「マディー」から見た意外に知られていないその生活ぶりを皆様にお伝えしたいと思っております。

平成12年度王子動物園行事予定

4月	・重要文化財「旧ハンター住宅」の館内公開〔毎日〕 ・夜桜通り抜け(当園の桜をライトアップ)〔5日、6日、7日〕
5月	・ゴールデンウィーク動物アニメ映画会〔3日～7日〕 ・ヒツジの毛刈り〔中旬〕
6月	・ジャイアントパンダ日中共同飼育繁殖研究開始式典〔上旬〕
7月	・動物たんざくに願いをこめてたなばたを飾ろう〔上旬〕 ・ホッキョクグマに氷をプレゼント〔中旬〕 ・サマースクール(要応募)〔下旬〕
8月	・重要文化財「旧ハンター住宅」の館内公開〔毎日〕 ・動物絵画教室(要応募)〔上旬〕 ・アマチュア動物写真コンクール募集〔上旬〕 ・動物音楽会〔上旬〕 ・お盆休み動物アニメ映画会〔中旬〕
9月	・長寿動物へのプレゼント〔中旬〕 ・動物愛護標語コンクール作品展〔下旬〕
10月	・重要文化財「旧ハンター住宅」の館内公開〔毎日〕 ・オウサマペンギンたち屋外プールへ引っ越し〔下旬〕
11月	・動物の体重をはかる会〔上旬〕 ・動物園夜間探検隊(要応募)〔上旬〕 ・賀状版画コンクール募集〔上旬〕 ・アマチュア動物写真コンクール作品展〔下旬〕
12月	・動物折り紙でクリスマスツリーを飾る集い〔中旬〕 ・干支の引継ぎ(タツからヘビへ)〔中旬〕 ・動物園クリスマス会〔下旬〕
13年	・干支にちなんだ粗品をプレゼント〔2日、3日、4日〕
1月	・お正月動物アニメ映画会〔2日、3日、4日〕 ・賀状版画コンクール作品展〔上旬〕
2月	・大人のための動物園講座〔下旬〕
3月	・王子動物園50周年記念式典〔中旬〕 ・春休み動物映画会〔下旬〕

● 特別展を年3～4回開催

● 土曜・日曜・祝日

ゾウのしつけ参観・アシカのエサやり体験・ペンギンガイド

● ふれあい広場『ふれあいタイム』(団体は要予約)〔毎日〕

● 動物に関する教育支援事業『わかるかな?動物たちの鳴き声』
(小学校低学年の郊外学習 要予約)〔火曜・木曜〕

● こども動物相談〔日曜・祝日〕・動物映画教室・動物ビデオクイズ〔適宜〕

● テレホンサービス078-881-8102

● ホームページ <http://www.jin.ne.jp/kobe/ojizoo/>

● 毎週「水曜日」休園(但し、祝日・休日と重なる場合は開園)

はばたき 46号

平成12年3月21日発行

企画・監修 神戸市立王子動物園

☎ 078-861-5624

編集・発行 (財)神戸市公園緑化協会
動物園事業部

〒657-0838

神戸市灘区王子町3-1

☎ 078-801-5711

デザイン・印刷 (株)旭成社

☎ 078-222-5800



0 406070 000306

定価 300円(消費税込み)

2000.03.3500